

## \* 話をする時間

慌ただしい日常のなかでこどもの話をじっくり聴く時間を確保するのは、意外と難しいものです。それはこどもが幼少期でも思春期でも、あまり変わりません。

こどもと接する時間のなかで、お互いが話したい、聴きたいと思える状況になければなりません。我が家の場合、幼少期は一緒にお風呂に入る時間やお布団に入って眠るまでの時間、小学生以降は送迎の車中での時間が比較的落ちついて話ができる時間でした。考えてみれば、いずれも狭い空間で他の人がいない状況です。

こどもが、楽しかったことや嬉しかったことはもちろん、気まずかったことや失敗したこと、納得がいかなくて悔しかったことなどを少しでも話してくれると、親としてはほっとします。なんだか様子がおかしいけれど、何も話してくれないとなると、こちらも不安でどうしたものかと悩みます。心配が先に立ちこどもにあれこれ尋ねると、こどもは不機嫌になってしまい話は聴けません。こどもが話してくれるまで待つべきなのか、こちらから尋ねたほうがいいのかと悩みますが、あまり踏込すぎないように気をつけているつもりです。



また、こどもが親に話をしている時、親は聴くことに徹したほうがいいと思います。これは私の失敗と反省に基づいた考えです。以前、こどもは私に話を聴いてほしいだけで私の意見を求めてはいなかったのに、つい説教をしてしまった時のことです。こどもから「だから話したくないんだ。」と言われて、「しまった!!」と思いました。そのことがあってからは、できるだけ傾聴に努めています。どう対処するかはこどもが考えること。そう言い聞かせて自分から意見を言うことはなるべく我慢しています。こどもはこどもなりの考えや感性で物事を捉えており、自分なりの考えも持っています。親に話しているうちに自分の考えが整理されて、気持ちが落ち着くこともあるようです。

こどもにとっては話を聴いてくれる大人が身近にいるということは、安心につながると思いますし、こどもが親に話をしてくれることが、親の安心にもなると思います。